



企画展紹介

企画展「はやぶさ2」

9月から、科学館の展示場では「はやぶさ2」の企画展を開催します。2014年の冬に、小惑星探査機はやぶさ2の打ち上げが予定されていますが、はやぶさ2が地球を出発する前に、はやぶさ2について多くの人に知ってもらいたいと考えてこの企画展を企画しました。はやぶさ2の成功を祈って打ち上げを見守ってくれる方が一人でも増えてほしいと思っています。

はやぶさ2の旅は6年に及びます。その旅の予定の中で、節目となる、「打ち上げ」、「地球スイングバイ」、「小惑星への到着と探査」、「着陸」、「人工クレーター形成実験」、「地球帰還」のそれぞれのタイミングについて、池下章裕氏の精密イラストや関連資料の展示で、はやぶさ2の計画を解説いたします。

今回展示を予定している資料は、はやぶさ2の原寸大模型、H-2Aロケットの1/20模型、はやぶさの帰還カプセルの電波を受信した方位探知アンテナ、イオンエンジンの原寸大模型、ターゲットマーカーの原寸大模型、アエンデ隕石をはじめとする隕石の実物などを予定しています。

はやぶさは、種子島宇宙センターから、H-2Aロケットで打ち上げられます。H-2Aは巨大なロケットで、1/20のサイズに縮めても、人間の身長よりも高い模型になってしまいます。その巨大なロケットで打ち上げられるはやぶさ2は、原寸大の模型を展示します。はたして皆さんは、はやぶさ2の大きさを大きいと感じるでしょうか、小さいと感じるでしょうか。

探査機に搭載されるイオンエンジンやターゲットマーカーなどの機材の模型は、それだけを見てもよく分からないかもしれませんが、それぞれの機材に様々な技術が詰め込まれていることは分かると思います。そんなたくさんの技術の集大成としてはやぶさ2という1台の探査機が作り上げられている、ということに思いを馳せていただけたらな、と思います。

H-2Aロケット模型
(C)JAXA

イオンエンジン原寸大模型 (C)JAXA

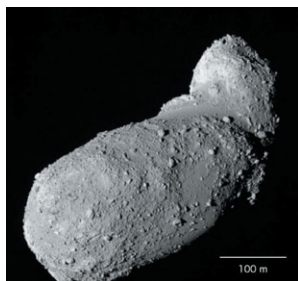
そんな機械の塊である探査機が目指す小惑星は、太陽系の始まりのころの状態を今に伝える、いわば「太陽系の化石」です。「はやぶさ」(初代)は小惑星イトカワの石を地球に持ち帰り、小惑星と隕石が同じ種類の岩石であることを明らかにしました。今回ははやぶさ2が目指す小惑星1999JU3は、小惑星の分類の中でイトカワとはちがうグループに属しています。1999JU3の石は、イトカワの石とは違う種類の石であるに違いありません。そしてそれは、人類が持っている隕石の中で、「C型」という分類の隕石に近い種類の石ではないか、と推定されています。今回の企画展では、C型隕石をはじめとする隕石の実物資料も展示しますので、実際に隕石を見て、小惑星の風景を想像してみてください。

はやぶさ2が地球に帰還するのは2020年12月の予定です。2010年にははやぶさが地球に帰還した時の資料も展示します。はやぶさのことを思い

返しながら、6年後のはやぶさ2の帰還を想像してみてください。6年後の

あなたは、どこで何をしているでしょうか。特に今、小学生、中学生、高校生のみなさんは、どんな将来を想像するでしょうか。今回の企画展では、京都大学、大阪大学、神戸大学やJAXAで実際に研究に携わっている方々もご紹介します。「研究をする」ということと学校で「勉強をする」ということは、ちょっと違うのですが、そんな「研究」の雰囲気や「科学する心」もこの企画展を通じて感じ取っていただけたらうれしいな、と思っています。

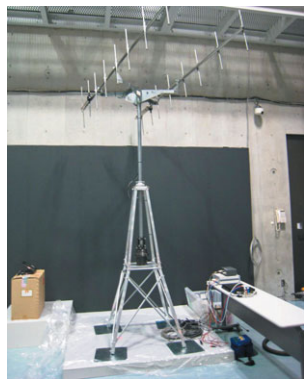
飯山 青海(科学館学芸員)



「はやぶさ」が探査した小惑星「イトカワ」 (C)JAXA



C型隕石の一つである「アエンデ隕石」



「はやぶさ」帰還カプセルの電波をとらえた、「方位探知アンテナ」

企画展「はやぶさ2」 9月2日(火)～11月30日(日)展示場4階にて開催中です。